

# 「大学共同利用機関の検証ガイドライン」骨子案について

## 検証趣旨

大学共同利用機関のミッションは、**個別の大学では整備・維持が困難な最先端の大型装置や大量のデータ、貴重な資料、研究基盤等を全国の研究者に提供し、個々の大学の枠を超えた共同研究を推進すること**にある。本機関が学術研究の動向に対応し、大学の学術研究の発展に貢献しているかを定期的に検証し、再編や統合を含めて在り方を検討する

## 検証の構成

自己検証：国内外の研究者等の意見（必要に応じて海外の研究者の意見を聴取する）

外部検証：大学共同利用機関の研究成果や将来性を専門的かつ客観的に評価できる利害関係のない有識者

[特に問題はない](#)

## 検証の基準

観点

当該研究分野の動向、大学の研究者のニーズ、研究分野の将来性等を勘案し、研究所としての研究機能のみならず、共同利用共同研究を通じて研究者コミュニティに貢献できる機能を有していることを確認できるか？

指標例

大学共同利用機関の特性に応じつつ客観的に検証できるよう指標例を示す

[特に問題はない](#)

## 検証の時期

6年間ごとに実施

[適当と思われる](#)

## 大学の共同利用共同研究拠点との関係

大学共同利用機関から大学の共同利用共同研究拠点への移行に関しては、特色と強みの相乗効果が見込め、国立大学法人から要望が示されたならば、科学技術・学術審議会で検討する

大学の共同利用共同研究拠点から大学共同利用機関への移行に関しては、定期的に大学の共同利用共同研究拠点に対して、大学共同利用機関への移行に係わる要望を調査することとされており、要望が示されたならば、科学技術・学術審議会で検討する

[大学の附置研センターと大学共同利用機関の再編統合等を議論すべきでは？](#)

# 「大学共同利用機関の検証」における主な観点と指標例について 1

## 運営面

国内外の研究者コミュニティの意見を踏まえて運営しているか？

観点

運営委員会の構成が当該機関の委員が全委員の2分の1以下で、研究者コミュニティの意見を反映できる体制になっているか

指標例

会議体の整備状況、外部有識者の割合

[機構長のリーダーシップを強化するため、外部人材の登用促進や機構長裁量経費の充実](#)

[4つの大学共同利用機関法人が連携し、これまでのノウハウを持ち寄ることで、共同利用共同研究を安定に持続できる効率的な運営を図る](#)

[大学の附置研センターとの再編統合等の可能性も考慮する](#)

## 中核拠点性

各研究分野に関わる大学や研究者コミュニティを先導し、学術研究等を行う中核拠点であるか？

観点

中核的な拠点として研究者コミュニティに寄与しているか  
研究水準は十分高いか

国内外の関連研究者からの共同利用共同研究の応募に対して、当該機関の委員が全委員の2分の1以下の組織の議を経て選考されているか

研究費や研究活動不正に対応する体制整備がなされているか

[異分野融合による研究領域の拡大と新分野の創成に向けた研究プロジェクトを立案し実施する](#)

[国際的な異分野融合研究を推進する取組みとして、機構直轄の国際連携研究センター\(IRCC\)を平成30年度に設置し、海外の研究機関等との組織的な分野融合研究を推進している](#)

指標例

当該機関の研究活動状況(論文数、国際共著論文数の割合、TOP10%論文数と割合、国際共同研究の実施数)

当該機関に所属しない研究者の活動状況(論文数、国際共著論文数の割合、TOP10%論文数と割合、国際共同研究の実施数)

共同利用共同研究の実施状況

研究費や研究活動不正に対応する体制整備状況

## 「大学共同利用機関の検証」における主な観点と指標例について 2

### 国際性

国際的な学術研究拠点としての機能を果たしているか?

#### 観点

当該研究分野で国際的な学術研究拠点として認知されている海外研究者をアドバイザーや外部評価委員として、当該研究分野の国際的な動向を把握し、運営する体制が整備されているか  
女性や海外の研究者の確保のための支援体制があるか

#### 指標例

国際的な研究活動状況(国際共著論文数の数と割合、国際共同研究や国際プロジェクトの実施数、海外研究機関との研究者交流(派遣と受入)、国際協定の締結状況、海外への協力と貢献、国際シンポジウムの開催状況)

当該機関に所属しない研究者の活動状況(論文数、国際共著論文数の割合、TOP10%論文数と割合、国際共同研究の実施数)  
当該研究分野の国際的な動向を把握する体制が整備されているか  
国際的な研究者が在籍しているか

人材の多様性(女性や海外の研究者)確保のための支援体制  
クロスアポイント制度や年俸制の導入状況  
英語での職務遂行が可能な職員が配置されているか

研究資源を最大限に活用し、我が国の基礎科学力の国際的なプレゼンスを強化する

国内外の大学等との連携により共同研究を実施するとともに、新たな学問分野の開拓も視野に入れ創造的研究活動を推進し、国際的にも評価される機関間連携ネットワークの構築を図っている

国際的な異分野融合研究を推進する取組みとして、機構直轄の国際連携研究センター(IRCC)を平成30年度に設置し、海外の研究機関等との組織的な分野融合研究を推進している

海外オフィスや外国人研究者の相談窓口を設置して国際化を促進する

海外の研究機関とのネットワークを生かして、国際共同学位プログラム等を策定し、留学生を積極的にリクルートする

## 「大学共同利用機関の検証」における主な観点と指標例について 3

### 研究資源

大学では整備運用が困難な最先端の大型装置やデータを保有し、国内外の研究者コミュニティーに供しているか?

#### 観点

保有する装置、設備、資料、データ等が国際基準に照らして卓越したものか  
これらの資源が活用されているか  
国内外の研究機関と連携した共同運用に取り組んでいるか  
支援業務に従事する専任職員が配置されているか

#### 指標例

保有する装置、設備、資料、データ等の共同利用共同研究状況  
大学や研究機関との連携による共同研究状況  
研究支援体制の整備状況

大学との組織間連携を強化するため、自然科学大学間連携推進機構(NICA)を大学の学長・研究担当理事と協力してH28年度に設置し、大学間連携研究設備ネットワークによる設備の相互利用を推進している

新分野創成センターを設置し、新たな学問分野となり得る研究分野を設置・推進している

異分野融合・新分野創成に繋がる共同利用共同研究を構築するため、自然科学共同利用・共同研究システム(IOUS)を導入し、機構一体で実施体制を整備している

### 新分野の創出

新たな学問分野の創出に戦略的に取り組んでいるか?

#### 観点

当該機関は研究実績で高い成果を上げているか  
共同利用共同研究で高い成果を上げているか  
異分野融合と新分野創出のため、大学や研究機関と連携しながら、研究組織の再編等の検討を進めているか

#### 指標例

学際的融合的領域における当該機関およびの当該機関に属さない研究者の研究活動状況(論文数、国際共著論文数の割合、TOP10%論文数と割合、国際共同研究やプロジェクトの実施数)  
大学や研究機関との連携に関する検討体制の整備状況

# 「大学共同利用機関の検証」における主な観点と指標例について 4

## 人材育成

若手研究者の育成と活躍機会の創出

### 観点

総合研究大学院大学の基盤機関として、大学と協力して人材育成に取り組んでいるか  
ポスドク等の任期付き研究員キャリア支援を通して若手研究者の自立支援や登用を進めているか  
国際的な研究者の育成に取り組んでいるか  
連携大学院制度を活用し、大学院生を共同利用共同研究に積極的に関与させているか

### 指標例

総合研究大学院大学としての取り組み状況(学生数、学位授与数)

連携大学院としての取り組み状況(学生数、学位授与数)  
特別共同利用研究員の受け入れ状況(学生数、学位授与数)  
ポスドク等の任期付き若手研究員支援の取り組み状況

## 社会との関わり

社会と協働し、社会の多様な課題解決に取り組んでいるか?

### 観点

産業界にも、当該機関が保有する装置、設備、資料、データ等を解放する  
社会の多様な課題に貢献できる研究について情報を発信する

### 指標例

情報発信状況(HPのアクセス数、公開シンポジウム、市民講座、研究機関の一般公開等)  
産学連携(産学連携論文数、特許出願数等)

恵まれた研究環境を活用した大学院教育により、次世代を担う若手研究者を育成する

[統合イノベーション戦略 \(H30年6月15日閣議決定\)](#)

若手研究者による挑戦的な研究を奨励し、多様な外部資金を活用して研究に専念できる環境を整備する

[未来投資戦略2018 \(H30年6月15日閣議決定\)](#)

若手研究者を中心に研究生産性の高い事業へのリソースの重点投下、海外特別研究員事業の拡充、研究力向上加速プランを実施する

ステークホルダーである国民に基礎研究の重要性を理解してもらう努力をお願いしたい

高名な学術賞の受賞やトップジャーナルへの掲載も重要であるが、各研究領域のコアジャーナルの重要性をアピールすべき

デジタル革命 (AI/IoT、ビッグデータ、Society5.0)、生産年齢人口の減少、超高齢化、グローバル化、地方の過疎化等の社会変革にどのように対応するか

分野を超えた知識・人材の融合・協働による研究力の強化、全員参加型 (ダイバーシティー、共生)社会にどのように対応するか

## 大学共同利用機関に対する今後の期待

- ✓ 大学共同利用機関という制度は世界に類を見ず、今後も大学ではできない国際的な最先端研究を牽引してほしい
- ✓ 学生が研究者に憧れるようにな研究体制を維持してほしい
- ✓ 大学の研究力を強化して新しい学術領域を開拓してほしい
- ✓ 大学の共同利用共同研究拠点との差別化および統合再編を議論してほしい

社会変革(デジタル革命、超高齢化、人口減少、グローバル化等)  
異分野融合による全員参加型(ダイバーシティー)社会

にどのように対応するか?